

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) ケアホーム田海園

所在地
(県・市町村名) 鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7

記入者名
(管理者) 徳丸栄子

記入日 平成 21年 3月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である『目配り・気配り・思いやり』を重要事項説明書や契約書に明示し、玄関にも大きく掲示してある。		地域密着型サービスとしての理念の取り込み
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、出勤時には玄関に掲示してある理念を確認、理解し、実現に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書や契約書に表記し、利用者・ご家族に対しても利用開始時に十分説明し、同意を得ている。地域で認知症の方々が普通に暮らせることの大切さや、グループホームの役割を書いたパンフレットを田海園要所に置くなどしている。『田海園だより』も病院等に置かせていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	連携をとっている病院等や小中学校・地域公民会等に『田海園だより』を配布するなどし、日常の生活ぶりを伝えている。『田海園だより』発送時に同封している送付案内にボランティア活動等も随時受け付けていることを記載している。又、盆・新年の挨拶回りを毎年行っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩・地域のスーパーへの買い物・フラワーロード等地域周辺のドライブ・暮れ市・季節の花見等に外出し、地域との交流を図る努力をしている。		長時間外出時の身体障害者用トイレ設置場所の確認、新たな外出先の開発

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者に対する知識や介護技術については、各種の研修や事業所内で勉強会等を通じてスキルアップを図っている。		講師を招いての認知症研修の取り組み
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在のサービス内容については随時話し合い、改善できるよう努めている。自己評価・外部評価の意義を理解し、改善できる部分はないか確認している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A4サイズに記録した写真や行事報告書等で利用者の日々の生活や行事等を報告している。運営推進会議出席者のアドバイスを取り入れ、サービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	薩摩川内市主催の認知症サポーター養成講座へも出席し、サービスの質向上をはじめ、認知症とはどういうものかを理解し、個々の対応方法についても取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市で開催される講演会や研修等に出席し、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ姿勢を持っているが、活用する機会がない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や会議に参加し、疑問に思ったこと等の意見を出し合い、話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に表記し、利用者様・ご家族様に対して利用開始時に十分説明、不安等もお聞きし同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『苦情・相談委員会』を設け、利用者様・家族からの苦情等があった場合は記録するよう、ノートを準備しているが、最近では全く訴えがない。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や季刊号の『田海園だより』で、日頃の暮らしぶりを見ていただいている。家族へも行事参加の呼びかけをし、一緒に過ごす時間をもうけている。利用者の体調不良時には、随時電話で連絡をとり経過報告、必要時は医師とも話しをしていただいている。金銭管理については、領収書等を請求書送付時に同封している。又、面会時にも残金等をお知らせしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談に関する項目を明記し、説明をしている。運営推進会議時にも家族代表からの意見を聞く機会がある。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する職員会議や、日頃の業務の中で出た意見を聞き、運営に反映できている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診等は可能な限り家族に同行していただき、医師からの説明を聞いていただいているが、必要時は勤務調整し、必要職員を確保している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職以外は、馴染みの職員がサービス提供できるように運営者と職員間で話し合い、利用者様へのダメージを最小限に抑えることができるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	老施協の研修会への参加や、外部の講演会等の案内を掲示し希望者を募り、極力参加するよう呼びかけている。又、介護福祉士等の国家資格取得もすすめている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する事業所連絡会等で同業者同士の意見交換や交流の機会がある。お互いに困っていることなどをあげ、解決方法の検討等をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	冷暖房完備の休憩所を設け、一息つける場と十分にくつろげる環境づくりをしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者を含めた全職員の勤務状況を把握し、資格取得や知識・技術向上に向けた研修等への参加を奨励し、様々な情報や機会を提供している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の言葉に耳を傾け、思いなどをじっくり聴く時間をとり、同調し受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人には言えない困っていること等を聴く機会をつくり、思いを受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要としている支援を見極め、他のサービスで解決することであれば、本人・家族に持ちかける、などの対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得してサービスを利用するように見学を勧めている。職員と顔なじみになり、他利用者様や園の雰囲気にも慣れていただけるよう職員間の情報交換をしながら家族へも相談し、良い関係がつかれるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを管理者・職員が共有しており、そば打ちなどの得意なことや昔の言葉などを教えていただきながら職員も学び、支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの訴えを傾聴し、利用者本人にとって一番良い対策は何なのかを一緒に考えていけるような雰囲気づくりに努めている。又、実際に一緒に考え、その後の様子を報告している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話連絡等で家族との情報の共有をはかり、よりよい関係を保てるよう、支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、外泊、墓参り等は、家族と一緒にに行けるよう、体調管理にも注意しながら支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全員が利用者一人一人の性格やその人なりのやり方等を把握し、作業を一緒にしている。洗濯物をうまくたためない方は他の方にお問い合わせするなどして、お互いに支えあえる場を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設転移や入院等により退所された方や利用者や家族についても適時状況等を尋ねる等、関係を継続している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方や希望等を把握し、その人らしい暮らしを続ける方法を随時検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人が面会に見えた時等に聞き取りを行い、それを参考にした支援を行っており、利用者個々がこれまで暮らしてきた経験などを活かしながら毎日をご過ごせるよう、支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の現状を把握し、その日の心身状態に合わせ、利用者ができることをお願いするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族や主治医・訪問看護師等の意見を聴き、職員会議等での職員の意見を参考にして、本人本位の介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングをして計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、家族・医師と随時話し合い、現状に即した計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。医師等からの情報は『連絡ノート』に記載し、職員全員が同じ情報を共有、検討しながら介護計画等の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病状や状態によっては家族と相談し、症状に合った医療機関の受診を支援している。又、週2回はデイサービス利用者とのふれあいの場を作り、楽しみの場がもてるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が居住されていた地域の民生委員等の来園、地域の市(暮れ市等)等への参加、学校の職場訪問受け入れなどで交流を図りながら支援している。		地域資源のさらなる活用
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、利用できるサービスを検討し他事業者と相談するなどの支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人又は家族の意向や必要性がある場合は、地域包括支援センターの情報等についても適時収集し、相談もしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。病状や状態によっては家族と相談し、病状に合った医療機関の受診を支援している。受診後の報告も連携がとれている。		

鹿児島県 ケアホーム田海園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する協力医療機関が確保されており、定期的又は変化があった際はその都度相談し、指示を仰いでいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと24時間体制で連携がとれており、訪問日には利用者の体調等について相談したり、アドバイスを受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員は医療機関へ頻回に足を運び、医師等に状態を伺い、家族に対しても経過を説明し、回復に向けた支援と連携をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けてのマニュアルを作成し、本人・家族と入居時や状態変化時に話し合っている。協力病院の夜間往診や医療連携体制があり、職員全員で方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としてできることを職員が理解しており、24時間対応の医療機関(かかりつけ医・訪問看護)と連携をとり、チームとして支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う体調不良等がないよう、今までの環境を家族や関係者間で情報交換を行い、ダメージが最小限になるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人一人を理解し、誇りやプライバシー・個人の尊厳を損ねないように配慮しながら、声かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いにも十分注意している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人に合わせた声かけや雑談等をしている。何かを決めていただく場合などは、雑談の中で納得できるような会話になるよう配慮している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一日のスケジュールはおおまかに決めているが、起床や就寝・食事時間など利用者のペースを尊重した支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	週に1回の買い物の日や花見等には、外出用の衣類を職員と一緒に楽しみながら選べるよう支援している。美容院については、寒い時期は家族も外出を控えたいとの希望もあり、職員が散髪をしている。暖かい時期には家族と一緒に馴染みの美容室へ行かれる利用者もいる。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理の下ごしらえや片付けなど一緒に取り組み、食事を共に楽しんでいる。片付けなどの当番を決めてあり、利用者も確認し、すすんで手伝ってくれている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	毎週金曜日に1週間分のおやつを利用者と一緒に考え、土曜日に一緒に買い物に行っている。	

鹿児島県 ケアホーム田海園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握をして、声かけに工夫しながら気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は現在、希望や習慣として午後に設定しているが、希望者には毎日入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の方は、タイミングや声かけを工夫し、清潔保持に努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人がお好きな場所でくつろげるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下にあるボードに一日の作業係りを記入し、自発的に作業をされるよう支援している。気晴らしに庭に出て行く入居者には、さりげなく職員も一緒について行き、日向ぼっこをしたり花を摘んだりしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や市へ出かける時は、少しずつお金を持っていただき、本人が買いたいものがある時に職員の見守り等で使ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により散歩や買い物など支援し、季節の花見やソーメン流し・地域の市などに出かける機会をつくっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はいつでもできる体制にある。夏はそうめん流しなど、季節に応じた場所に皆で行けるよう手配をし、楽しんでもらえる機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は職員が電話をかけ、利用者に話しをしていただいている。家族宛に暑中見舞いや年賀状などを利用者に書いていただき、家族にも喜ばれている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は居室やホール等、好きな場所でゆっくりとお茶を飲みながら会話していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について記載されている資料などを職員全員目を通し、正しく理解・認識し、身体拘束のないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけないようにしている。十分な目配りにより、状況を把握し、外へ出て行こうとされる入居者にはさりげなく一緒に外の散歩をしたりしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の性格や行かれそうな場所などを把握し、常に安全であるよう配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の性格等を把握し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対策マニュアルを作成し、職員もその内容を理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成しており、職員会議時等を利用し、説明や勉強会を行っている。消防局による救急救命の講習も受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力し、非難訓練や消火訓練を実施している。職員が近隣に居住し、地域の防災重点地域として地域住民の協力も得られる体制がある。災害に備え、自家発電や備品類も準備している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員会議や随時の会議開催時にリスク等も検討し、器具等で予防できそうなことに関しては家族に相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は日々のバイタルチェックや日常行動・癖などを把握しており、業務日誌にも特記事項として記載し情報の共有を図っている。身体に変化が見られた場合、状態に応じて医療機関に連絡し往診してもらうなどの対応を柔軟に変化させ、実施している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人一人の薬の目的などについて理解しており、状態に応じて医師へ相談・報告し、内服薬の増減量があった場合には、様子観察し電話で又は往診時に医師へ報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況も一人一人を把握し、必要時に処方されている内服薬を服用していただいている。又、運動不足にならないよう、運動を兼ねて遠いトイレへ排泄に行かれるよう誘導している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔は、殆どの利用者が自分でできていない。職員は、利用者個々のできることを十分に把握し、できる方は見守りの中で自力でしていただき、できない方は声かけをするなどして残存機能を活かした支援を行っている。		

鹿児島県 ケアホーム田海園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した栄養バランスに配慮した献立にそって調理、摂取量も確認している。食事が少ない利用者には、食事中の声かけや内容の説明などをし、できる限り多くの種類の物を食べていただけよう支援している。水分についても、摂取量の少ない方には時々お茶以外の飲み物をすすめたりして脱水に十分注意している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、職員会議や企業全体の勉強会も実施している。職員の体調不良時は、管理者・運営者に報告し、感染媒介者にならないよう注意している。又、利用者(家族に了解を得た上で)共にインフルエンザ予防接種を受けている。		利用者・職員個々の体調管理と感染予防
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用し、調理前の十分な手洗い等の実施や食中毒防止に努めている。手順等を作成して、調理器具管理、台所衛生管理を行い、清潔・衛生を保つようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の庭には、利用者と職員とで作った花壇などがあり、季節の花が咲いている。又、玄関入口も季節ごとに雰囲気を変えるなどして、ご家族等が入りやすいよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製の食卓を配置し、家庭的で温かみのある雰囲気を演出している。又、壁の飾りも季節に合ったものに変えるなど、落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂にはテーブルと椅子・ソファが備えてあり、利用者はそれぞれ気に入った場所で自由に過ごすことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い入れの強いものを持って来ていただき、又、自分の作品を飾り、気に入った空間を作っていたりしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の外気温で冷暖房の温度調節を行ったり、服装の調整を行っている。居室の室温は一人一人に合った快適な温度になるよう調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され、安全に歩行等ができるよう工夫している。又、建物内は段差をなくし転倒等の危険防止を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名前が表記され、写真が飾ってある。浴室やトイレの前なども暖簾や目印などでわかりやすいよう、工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物干し場のスペースをとっており、職員と一緒に洗濯物取り込みをしている。又、季節ごとに花の植え替えもできるよう、広くスペースをとっており、水撒きや草取りなどの手入れも行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 ケアホーム田海園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の健康等には特に注意している。普段より一人一人の状態を把握し、いつもと様子が違う場合には主治医へ連絡・相談できるよう、申し送りも徹底している。利用者様の体調不良時はご家族様へ電話で状態報告し、面会に来ていただくなどして、利用者様が少しでも安心できるよう配慮している。又、様々な作品作成の様子や、行事の中でみつけた利用者様の笑顔や表情を写真に撮り、廊下や掲示板に貼りだして、面会時等にご家族様にも見ていただいている。これからも、理念である『目配り・気配り・思いやり』を忘れず、利用者様と寄り添い、和やかな雰囲気の中で安心した時を過ごせるようにしていきたい。